

## どう見てる？

小学5年生になり、わたしと同じクラスになったAさんは、授業中に一人で騒いだり、人をからかったりして、しゅっちゅう先生から注意を受けています。そして、注意を受けたときも素直に謝らず、それどころか何か不満そうな顔をしています。そんなAさんのことを、クラスみんなは「わがままで困った子」と言って、あまり仲良くなろうとはしませんでした。わたしもそんな一人でした。

ある日の昼休み、わたしのクラスは、体育館へ行ってドッジボールをして遊ぶことにしました。わたしもドッジボールが好きなので、一緒に仲間に入って遊びました。遊んでいるうち次第に熱がこもっていき、だんだんと投げるボールにも力が入っていききました。

そんなとき、とりそこねたボールが顔に当たってしまいました。もう痛くて痛くて、わたしはすぐその場にしゃがみ込んでしまいました。周りの人たちが心配して「だいじょうぶ？」と声をかけてくれますが、わたしは痛いのを我慢して「だいじょうぶ、平気、平気。」と答えました。

するとAさんが「当たったところを冷やしといたほうがいいで。水道のところまで連れていったるわ。」と言って、わたしの手を引っ張っていきました。突然のことでびっくりしたわたしは、そのままAさんに連れられていきました。水道の所まで来ると、「ほんとは痛いのがマンしてたんやろ。オレも何回かボールが当たってるし分かるわ。けど、みんなの前で『痛い』って言うの恥ずかしいもんな。」とAさんは言いました。

Aさんに声をかけられただけでもびっくりしたのに、わたしが心の中で思っていることまで分かるなんて、さらにびっくりです。Aさんにもこんなところがあるんやと思いました。

このことがあってから、わたしはAさんのことをいろいろと気にするようになりました。すると、おとなしくて目立たないBさんによく話しかけていたり、教室の掲示物がはがれかけているのを直したりしてくれていました。「わがままな子」とばかり思っていたAさんですが、やさしいところがいっぱいあったんだと思いました。そして、どうして先生やクラスみんながいる前で、同じようにしないのかなあ、そうしたらみんなもAさんともっと仲良くなれるのになあとも思いました。

わたしはAさんのいろいろなことがわかったので、今度はわたしからAさんに声をかけてみようと思いました。そして、クラスみんなにも、Aさんのことを伝えていこうと思いました。